

令和6年度4月入学

大学院人間文化総合科学研究科（博士前期課程）入学試験問題

【一 般 選 抜】

言語文化学専攻
ヨーロッパ・アメリカ言語文化学コース

〔専門科目〕

試験日：令和6年1月27日（土）

注 意

1. 問題は、Ⅰ（「英語学・言語学」）、Ⅱ（「イギリス言語文化学・アメリカ言語文化学」）、Ⅲ（「ドイツ言語文化学」）、Ⅳ（「フランス言語文化学」）の4つの領域からなる。いずれか1つの領域のみを選択して解答すること。
2. 解答に際しては別添の解答用紙（9枚同封）を用い、解答用紙の問題番号欄に問題番号を明記して、問題ごとに別々の解答用紙を用いること。なお、使用する解答用紙のすべてに受験番号、氏名を記入すること。
3. 総ページ数 — 19ページ

英語学・言語学分野

（問題Ⅰ-i～Ⅰ-iv） — 3～7ページ

イギリス言語文化学・アメリカ言語文化学分野

（問題Ⅱ-i～Ⅱ-iv） — 9～15ページ

ドイツ言語文化学分野

（問題Ⅲ-i～Ⅲ-iii） — 16～17ページ

フランス言語文化学分野

（問題Ⅳ-i～Ⅳ-iii） — 18～19ページ

4. 試験終了後、この冊子は持ち帰ること。

英語学・言語学分野

I-i

次の項目から 4つ 選び、具体例を挙げて 英語 で簡潔に説明しなさい。

- (1) phoneme
- (2) derivational morphology
- (3) double object construction
- (4) marked vs. unmarked
- (5) countable noun vs. uncountable noun
- (6) figure vs. ground
- (7) linguistic relativism
- (8) explicit meaning and implicit meaning
- (9) repair
- (10) metalinguistic negation

I-ii

次の英文を読み、下線部(a)(b)を日本語に訳しなさい。

問題文は、著作権の関係で掲載しておりません。

(Ariel, Mira (2010) *Defining Pragmatics*, 一部改変)

I-iii

次のデータを観察し、no に関する解釈について、気づいたことを日本語で述べなさい。(* は容認されないこと(あるいは不自然であること)を示す。)

- (1) a. Tom went to Paris with no money.
b. Danny gives money to no charities.
- (2) a. Tom went to Paris with no money, didn't he?
b. Danny gives money to no charities, does he?
- (3) a. Tom went to Paris with no money, and so did Bill.
b. *Tom went to Paris with no money, and neither did Bill.
c. *Danny gives money to no charities, and so does Bill.
d. Danny gives money to no charities, and neither does Bill.
- (4) a. *With no money did Tom go to Paris.
b. With no money, Tom went to Paris.
c. To no charities does Danny give money.
d. *To no charities, Danny gives money.

I-iv

次の英文を読んで、下記の問題に答えなさい。

問題文は、著作権の関係で掲載しておりません。

問題文は、著作権の関係で掲載しておりません。

(Calude, Andreea S. and Laurie Bauer. 2022. *Mysteries of English Grammar*, 一部改変)

問

1. 下線部(a)を日本語に直しなさい。
2. 下線部(b)の内容を(1)の例について具体的に日本語で説明しなさい。
3. 下線部(c)の内容を本文に即して具体的に日本語で説明しなさい。
4. 下線部(d)を日本語に直しなさい。
5. 下線部(e)の内容を本文に即して日本語で説明しなさい。

イギリス言語文化学・アメリカ言語文化学分野

II・i 各群の a, b の中から一つを選んで簡潔に説明しなさい。(英語で解答してもかまいません。)

- 1) a. *The Canterbury Tales*
b. *Brave New World*

- 2) a. Charles Dickens
b. William Butler Yeats

- 3) a. Lady Macbeth
b. Elizabeth Bennet

- 4) a. Samuel Johnson
b. Kazuo Ishiguro

- 5) a. the Bloomsbury Group
b. blank verse

II-ii 各群の a, b の中から一つを選んで簡潔に説明しなさい。
(英語で解答してもかまいません。)

- 1) a. *Absalom, Absalom!*
b. *The Catcher in the Rye*

- 2) a. Natty Bumppo
b. Willy Loman

- 3) a. Washington Irving
b. Cormac McCarthy

- 4) a. Gilded Age
b. Harlem Renaissance

- 5) a. Emily Dickinson
b. Robert Lowell

II-iii 次の文を読んで、設問に答えなさい。

問題文は、著作権の関係で掲載しておりません。

問題文は、著作権の関係で掲載しておりません。

出典：“The English-Muffin Problem” by Gilad Edelman, *The Atlantic* Dec. 21, 2023.

設問

1. 下線部(1)で何を調べるために、*The Atlantic* はどんな poll を依頼したのか、本文に即して説明しなさい。
2. 下線部(2)で、何がどのように変わったのかを、本文に即して具体的に説明し、その理由として筆者が考えていることを答えなさい。
3. 下線部(3)を和訳しなさい。
4. 下線部(4)を和訳しなさい。
5. 下線部(5)で、筆者が意味するところを具体的にしながら訳し、筆者がその理由として考えていることを説明しなさい。

II-iv 次の英文を読み、設問に答えなさい。

問題文は、著作権の関係で掲載しておりません。

問題文は、著作権の関係で掲載しておりません。

(Nóra Séllei, “The Humanizing Transformations of the Space of the Home in Gaskell’s *Cranford*. *Place and Progress in the Works of Elizabeth Gaskell*, edited by Lesa Scholl, Emily Morris and Sarina Gruver Moore, Routledge, 2015)

設問

1. 下線部(1)を和訳しなさい。
2. 下線部(2)を和訳しなさい。
3. 下線部(3)の内容を本文に即して説明しなさい。
4. 下線部(4)の内容を本文に即して説明しなさい。

ドイツ言語文化学分野

Ⅲ-i

次の文章は、ヘルムート・クラウサー『UC』の一節である。日本語に訳しなさい。

問題文は、著作権の関係で掲載しておりません。

(Helmut Krausser: UC)

*Diabetes : 糖尿病

*schwarz auf weiß : gedruckt, schriftlich

III-i

次の文章を日本語に訳しなさい。

問題文は、著作権の関係で掲載しておりません。

(Wieland Freund: Nemi und der Hehmann)

*Trampelpfad < trampeln : 足で踏みつける

III-iii

次の文章をドイツ語に訳しなさい。逐語訳でなくとも、大意が伝わる表現でかまいません。

- 問1 ゲーテはワイマールをあとにして、見知らぬ世界を体験するために、スイスへ旅立った。そこでチューリヒを訪れ、湖のうえから眺めた自然の風景を、ひとつの美しい詩のなかに表現した。
- 問2 「わたしは、あなたとは少し考え方が違います。あなたはこの単語を文字どおりに理解していますが、わたしはできるなら、これを一つの喩え、何かの象徴として捉えたいと思っています。」

フランス言語文化学分野

IV・i 次の文章を読み、設問に答えなさい。

問題文は、著作権の関係で掲載しておりません。

(<https://www.radiofrance.fr/franceculture/podcasts/le-billet-culturel/pourquoi-les-lyceens-ont-eu-de-la-chance-de-tomber-sur-andree-chedid-au-bac-francais-8028847> より。作問にあたり一部改変)

設問

- (1) 下線部①を和訳しなさい。
- (2) 下線部②で筆者がこのように考える理由を本文の内容に即して 300 字程度の日本語で説明しなさい。

IV-ii 次の文章を読み、設問に答えなさい。

(Guillemette Tison, *Le roman de l'école au XIX^e siècle*, Editions Belin, 2004, p.101-102 より。作問にあたり一部
改変)

設問

- (1) 下線部①②を和訳しなさい。
- (2) Flaubert と *M^{me} Bovary* について、それぞれ 200 字程度の日本語で説明しなさい。

IV- iii 次の日本語の文をフランス語に訳しなさい。

次に注目してほしいのは、自然環境の変化を文学がどのように捉えてきたか、ということである。そのような問題を考慮に入れることによって、議論の枠組みにも変化が生じることになるだろう。